

特集：寄居の国保、お財布事情

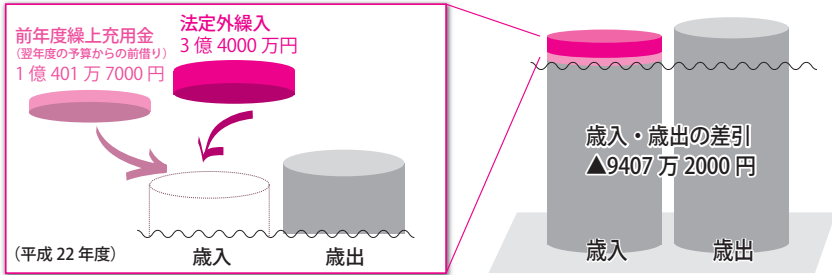
寄居町の国保財政が
危ない！

	歳入	歳出	差引額	前年度繰越金	前年度繰上充用金	繰入金		実質単年度収支
						基金	一般会計からの法定外繰入	
18年度	35億9100万円	34億6400万円	1億2600万円	1億3100万円	0	0	1億3200万円	▲1億3700万円
19年度	37億2900万円	37億1700万円	1200万円	1億2600万円	0	0	1億5000万円	▲2億6400万円
20年度	35億4900万円	35億6200万円	▲1200万円	1200万円	0	0	1億5000万円	▲1億7400万円
21年度	35億3600万円	36億4000万円	▲1億400万円	0	1200万円	0	2億円	▲2億9100万円
22年度	38億7400万円	39億6800万円	▲9400万円	0	1億400万円	0	3億4000万円	▲3億3000万円
23年度	43億600万円	43億600万円	－	0	9400万円	0	3億円	－

*平成18～22年度：決算額 平成23年度：12月補正後予算現額 金額の単位：100万円（未満切捨）注）差引額などが一致しない場合があります。

歳入と歳出の関係

一般会計（皆さんの税金）からの繰り入れと翌年度からの前借りをしても、歳出のほうが多い状況です。



*1 被用者保険

被用者（企業の社員や公務員など）が加入する保険のこと。

*2 担税能力

実際に税負担を受け持つことができる能力のこと。所得、財産（資産）、消費（消費支出）の状況がその基準となります。

*3 レセプト

患者が受けた診療について、医療機関が保険者（市町村や健康保険組合等）に請求する医療費の明細書のこと。「診療報酬明細書」とも呼ばれます。

*4 繰上充用金

歳出に対して歳入が不足する場合、翌年度の歳入を繰り上げて、今年度の歳入に充てることができる「翌年度からの前借り」です。地方公共団体にのみ認められた制度ですが、言わば非常手段であり、頻繁に行うことは望ましくありません。

*5 補正予算の上程

通常、新年度予算は3月定例会で審議され、可決を経て執行されますが、予算成立後に発生した事柄により、これを変更せざるを得ない場合があります。これを「補正予算」といいます。町はどんな理由でどれだけを増額（または減額）補正するのかを議会に説明・報告し、その承認を受けなければなりません。

*6 付託

本会議における審議に先立って、委員会に予備調査や審議を委ねること。内容によって、総務経済常任委員会と文教厚生常任委員会に振り分けられます。

*7 寄居町健康づくり・チャレンジポイント事業

20歳以上の町民が対象。健康診査など対象事業の参加と自己目標の達成によりポイントを獲得。100ポイント達成で記念品と交換。期限は24年10月20日まで。

*8 ジェネリック医薬品

特許が切れた医薬品を同じ有効成分を使ってほかの製薬会社が製造・供給できる医薬品。開発費用がかからず低価格のため、医療費の節約になります。

これまでの町
の取り組み
（保険税負担の公平性の確保の観点と医療費削減の両面から）
納税に関する相談の受付
臨宅徴収（滞納者の自宅を訪問）
コンビニ納付の開始
口座振替の加入を促進
ジェネリック医薬品（※8）の利用促進
生活習慣病予防のための特定健診



次の時代を担う子どもたちにツケを残さないために、いま私たちにできることはなんですか？

嘱し、手づくりでウォーキングマップを作成、健康づくりに役立てている越生町の視察を実施しました。（8ページをご覧ください）
健康づくり対策についてはさらに検討を重ね、議会としての提言がまとまり次第、町執行へ提言していきたいと考えています。

私たち寄居町議会も、国保会

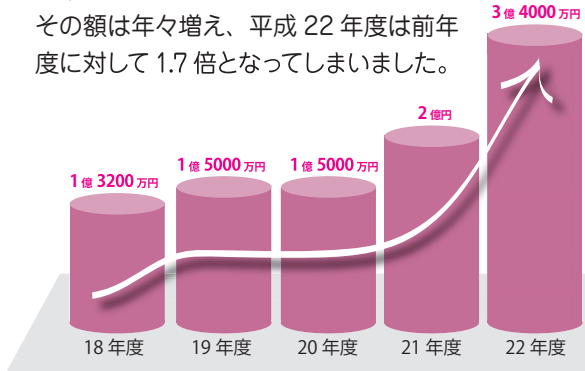
計について町民の皆さんと一緒に

考え、財政健全化のために取り組んでいきたいと考えています。

法定外繰入額の推移

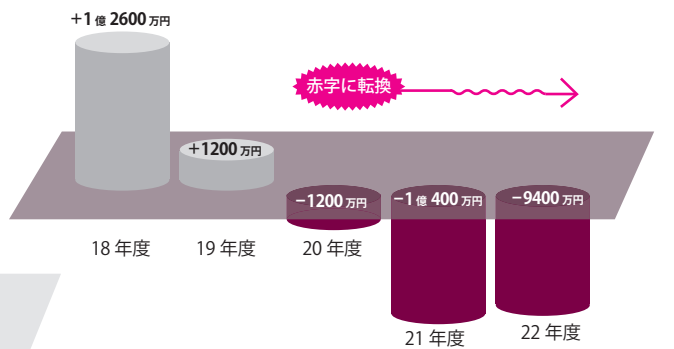
赤字を補うため、一般会計（町民皆さんからの税金）から繰り入れて賄っている状態が続いています。

その額は年々増え、平成22年度は前年度に対して1.7倍となってしまいました。



単年度収支で見ると

平成18年度は1億円超の黒字でしたが、平成20年度に赤字になり、以降、赤字の状態が続いています。



12月定例会における議員からの質疑

問 平成23年度上半期の医療費の動向と年間の見通しは。

答 50歳以上の方の医療費が全体の80%。特に55歳以上の方の入院者数が増えている。年間の伸びは前年度比8.5%増と見込んでいる。

問 高額療養費（30万円以上）の支給状況は。

答 前年度に比べ、件数は8.4%、金額で13%の増である。

問 医療費増加の要因を分析した上で、どこに重点を置いてその抑制に取り組むのかが重要であり、予防事業が大事。かけるべきところに予算を使うことも必要ではないか。

答 町としてもプロジェクトチームを立ち上げ、保健センターを中心に町を挙げて健康づくりを展開しているところであり、引き続き実施していきたい。

くり、予防対策など、さまざまな健康づくり事業の展開を進めていくほか、生活改善のきっかけづくりとして、昨年の10月23日から「寄居町健康づくり・チャレンジポイント事業（※7）」を開始。ご家族あるいはお仲間と一緒に、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

議会も16年度から

これまで寄居町議会では、平成16年度、文教厚生常任委員会の調査研究テーマである「高齢

さらに検討を進める

赤字の状況が続く中、今年度は医療費削減の取り組みとして、「町民の健康づくり対策について」を文教厚生常任委員会の調査研究テーマとしました。

委員会では、8月に寄居町の国保会計の現状や保健事業・予防事業の状況を担当課から説明を受けました。

また11月には公園の健康遊具で健康維持を図る川越市、行政区ごとに健康づくり協力員を委